

つながる

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
Japan Institute of Plant Maintenance

TSUNAGU vol. 10

第36回 TPMレディース大会

主催：JIPm 公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 開催日：2025年 3月14日



第36回 TPM®レディース大会 ～女性の力をモノづくりの力に～

特集

【特別企画】

ヤマハ発動機株式会社

せいぞう小町発足から3年間の軌跡
仲間との活動で得た、スキルとエンゲージメント

トヨタ自動車東日本株式会社

トヨタ車体株式会社

2社の想いのつながりで、活動の輪が広がり、
互いを照らし合う、きらめくコラボ活動が実現



女性の積極性が切り拓く未来 第36回TPM®レディース大会とこれからの展望



河合 満 KAWAI MITSURU

1948年生まれ。1966年、トヨタ技能者養成所（現トヨタ工業学園）を卒業し、トヨタ自動車工業株式会社（当時）に入社。本社工場鍛造部長、本社工場 副工場長、技監を経て、2015年専務役員に就任。2017年より副社長に就任し、現在はExecutive Fellowを務める。
2016年6月より公益社団法人日本プラントメンテナンス協会副会長、2022年6月より会長に就任。

私ども、公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会は、わが国唯一の設備管理の専門団体といたしまして、永くTPM (Total Productive Maintenance - 全員参加の生産保全) という考え方を普及してまいりました。

このTPMの理念をもとに、多くの女性のみなさまが素晴らしい活動に取組み、誰もが輝き、働きやすい職場づくりに貢献されております。このような取組みを集めた「TPM®レディース大会」が長年開催され、2024年度には第36回を迎えることができました。

「TPM®レディース大会」は、その名の通り、女性のみなさまが主体的に活動し、その成果を広く発信することを目的としています。モノづくりの現場における女性の力はますます注目され、多様な視点が新たな価値を創出する時代に、この大会は単なる発表の場にとどまらず、学び合い、インスピレーションを得る貴重な機会として成長して

まいりました。

とくに近年では、発表事例数や参加人数も大きく増えており、全国から寄せられる多くの取組みが大会を一層活気づけています。その革新的なアイデアや成果は、参加者一人ひとりにとって大きな刺激をもたらすことでしょう。TPMを通じて働く環境をより良くし、誰もが働きやすく能力を発揮できるフィールドを広げていく。こうした目標を実現するためには、みなさまの情熱と日々の努力の積み重ねが欠かせません。本大会を通じ、未来に向けた新たな一歩を共に踏み出していきましょう。

最後になりますが、大会開催にご協力いただいたすべての方々、そして参加者のみなさまに心より御礼申し上げます。

本誌を通じて、TPMのさらなる発展と、女性の力による変革を共に描く契機となれば幸いです。

今後とも皆さまのご活躍を祈念いたします。

第36回TPM®レディース大会表彰式



※写真中央：日本プラントメンテナンス協会 会長 河合 満
(トヨタ自動車株式会社 Executive Fellow)

Contents

- 02 ごあいさつ
- 03 きらめき賞受賞者一覧
- 04 特別企画：ヤマハ発動機株式会社 インタビュー
- 05 特別企画：トヨタ自動車東日本株式会社・
トヨタ車体株式会社 インタビュー
- 06 各きらめき賞受賞企業の声
- 11 発表者一覧
- 12 第37回レディース大会告知

第36回TPM® レディース大会 きらめき賞 受賞者

活用 のきらめき賞

～自社の問題を解決するモデルとなる活動に授与～

株式会社SUBARU

群馬製作所

田村 美咲、成塚 盟、野口 莉央

トヨタ自動車東日本株式会社

宮城大衡工場

伊藤 彩華

トヨタ車体株式会社

富士松工場

津田 姫子

オリエンタルモーター株式会社

高松カンパニー

渡部 幸恵



A会場発表企業



B会場発表企業

発想 のきらめき賞

～柔軟で独創的な視点の活動に授与～

ヤマハ発動機株式会社

ロボティクス事業部・磐田第1製造部

伏見 千紗、石井 里沙

株式会社SUBARU

群馬製作所

松島 夏海

三菱電機株式会社

名古屋製作所

田村 香織、佐藤 佳恵

日産自動車株式会社

横浜工場

大竹 由希子

表現 のきらめき賞

～取組みと成果が理解しやすい表現力に優れた発表に授与～

ジヤトコ株式会社

第二パワートレイン工場

大内 央華、中村 久美子

トヨタ自動車株式会社

田原工場

白潟 秋妃

マツダ株式会社

本社工場

白石 こころ、佐藤 凜杏来

豊田合成株式会社

尾西工場

新井 さくら



C会場発表企業



D会場発表企業

実践 のきらめき賞

～身につけた知識・技術を存分に発揮した活動に授与～

トヨタ自動車株式会社

本社工場

玉城 海優

ジヤトコ株式会社

八木工場

澤江 麻帆

日産自動車株式会社

栃木工場

小林 美穂子

トヨタ車体株式会社

富士松工場

荒木 美紗

挑戦 のきらめき賞

～困難なことや新しいことに果敢に立ち向かった活動に授与～

トヨタ自動車東日本株式会社・

トヨタ車体株式会社(共同発表)

相澤 まりん、飯田 祐衣

ヤマハ発動機株式会社

袋井南工場

後藤 麻由美

トヨタ自動車株式会社

元町工場

伊達 玲佳、副島 由衣

株式会社豊田自動織機

大府工場

田畑 亜珠

ヤマハ発動機株式会社

せいぞう小町発足から3年間の軌跡

仲間との活動で得た、スキルとエンゲージメント



3期メンバー。1回3時間の活動を月に2回継続した

発想のきらめき賞

ヤマハ発動機株式会社

2024年度活動リーダー

磐田第1製造部 石井 里沙さん

ロボティクス事業部 伏見 千紗さん

ロボティクス事業部 鈴木 美結さん

せいぞう小町事務局 清水 宏二さん

佐々木 彩雲さん

比率1割の女性が輝ける職場は、誰もが力を発揮できる会社の一步

生産本部の9割が男性という現状での、同質性からくる価値創造のスピードダウン、女性エンゲージメントの低さに危機感を抱いていたヤマハ発動機。そこで「女性の意見を反映した職場づくりを通して、女性自身が成長、能力向上できる活動をしていこうと2022年4月に発足したのがせいぞう小町です」と、事務局の佐々木彩雲さん。メンバーは製造現場で働く女性社員。1期メンバーの石井里沙さんは「女性は私1人の部署だったので、ほかの工場や部署の女性と一緒に活動できることに惹かれました」と参加時の気持ちを語る。

活動は自職場の困りごとをプレストで出し合うことからスタート。続々と出る意見に、事務局の清水宏二さんは「男性目線では見えてなかった指摘に、まさに目から鱗でした」と手応えを感じたという。



『DE&Iハンドブック』

選択テーマは、1期「作業ワースト3：硬い・高い・重い」「環境ワースト3：トイレ・休憩室&ロッカー・作業衣」、2・3期「その他ワースト3：ライフイベント・女性の体調・スキル向上」。手がつけられてなかった場所や物事の問題を徹底調査で解明して、細部にまで気を配っての改善に、男性の働きやすさも向上。約40年ぶりの作業衣のリニューアルで、女性視点の提案が多く採

用された。2期から参加の伏見千紗さん、鈴木美結さんが、石井さんと共にリーダーとして活動した3期は、「その他ワースト3：ライフイベント・女性の体調・スキル向上」のテーマに併せ、困った時の助けブック『DE&Iハンドブック』の刷新に注力。さまざまな視点でのブラッシュアップにより、3年の活動の集大成ともいえる一冊に仕上がった。

活動で得た気づき、スキルを自職場でも活用して、さらに成長

これら、せいぞう小町の成果は「パソコンとメールアドレスを支給されたのはメンバーになってから」（鈴木さん）というところから、初めて尽くしに果敢にトライした個々のがんばりとチーム力の賜物。「当初こそ事務局が引率しましたが、まもなくメンバーから主体的にやりたいという声上がり、各自がさまざまなスキルを磨いて助け合いながら、自発的に行動できるようになり、頼もしい限りでした」と清水さんも成長を語る。「苦労もありましたが、自信を持てるようになりました」と伏見さん。全メンバーが、定例会のアジェンダ・進行、資料作成、さらに外部への依頼や折衝など、活動を通して身につけた力を、通常業務でも大いに発揮しているそう。課題だった女性エンゲージメントの向上も、社内意識調査により数値的にも証明されている。

「せいぞう小町は、各工場から集まったメンバーによるプロジェクトですが、ゆくゆくは各工場で女性が活躍している姿が当たり前になればいいと思っています」と佐々木さん。さらなる高みを目指し、新たなフェーズに移行するというせいぞう小町の今後の活動に注目したい。

第36回 TPM® レディース大会のきらめき賞を受賞した発表の中から、特に発想や取り組みが先進な2事例にスポットをあてた特別企画。発表者だけでなく、上長や事務局にも話を伺い、会社としての取り組みポイントにも迫った。

トヨタ自動車東日本株式会社 トヨタ車体株式会社

2社の想いのつながりで、活動の輪が広がり、互いを照らし合う、きらめくコラボ活動が実現



第36回 TPM レディース大会にて。

挑戦のきらめき賞

トヨタ自動車東日本株式会社

宮城大和工場 品質管理部 品質管理課
リーダー：相澤 まりんさん
組長：大庭 真澄さん

トヨタ車体株式会社

吉原工場 品質管理部 検査課
リーダー：飯田 祐衣さん
組長：彦坂 友仁さん
班長：吉政 亜希子さん

TPMレディース大会で意気投合！ 組織や距離を超えたコラボがスタート

2023年度 TPM レディース大会で発表を行なったトヨタ自動車東日本（以下東日本）に、トヨタ車体（以下車体）から声をかけたのが交流の始まりだった。「当時の弊社は、女性リーダーが困りごとを共有する段階。そこで東日本の皆さんとの交流で、改善へのチャレンジを後押しできたらという思いでした」と車体の彦坂友仁さん。活動をさらに推進したいと考えていた東日本サイドも即同意。まずは互いを知るためにメンバーが訪問し合っただけの職場見学、座談会を経て、さまざまメンバーを巻き込んでのコラボ活動が始まった。

コラボ企画第1弾の「お互いの良いところ取り改善」で、車体が東日本から学んだのは「支援制度 QRコード」。これは「会社の制度などはパソコンを操作しないと見られない」という飯田祐衣さん（車体）の思い込みを払拭した。「弊社の職制はほぼ男性なので、そこに頼って生理や出産関連の支援を見ることにハードルを感じている人もいますから、自分のスマホで確認できるこのシステムはすごいと思いました」と吉政亜希子さん（車体）。一方、色彩心理学を取り入れた車体の休憩室を見学した東日本の相澤まりんさんは、自職場の殺風景な休憩室との違いにびっくり。「リラックスしてしっかり休むことの重要性に改めて気づきました」と語る。その後両社はアドバイス合っただけでは成し遂げられなかった改善を見事に実現した。

前工程、後工程が一緒に取り組む 品質管理で、「想い」も共有

オンラインやメールなどで親交を深める中、「一緒に何かをつくりたいね」と取り組んだのが、コラボ企画第1弾の「品質向上への取り組み」。

東日本が組み付けた部品を、車体が車に組み付けるという関係ながら、お互いの作業への理解は薄かった。そこで、ゲームの VR 体験からの発想で、自分たちで VR 動画の撮影・編集を行ない、バーチャル工場見学を実現。「品質管理を言葉で、『ここに気をつけて』『傷つけないで』といったも通じにくかったのですが、作業をリアルに見ることで想いの部分まで伝わったように思います」と東日本の大庭真澄さん。実際、「部品ひとつ一つをもっと大事に扱おうと思った」という声が双方の現場から出ているという。

現在は「女性の職場満足度向上活動」への取り組みで連携している2社。「女性の職制がまだわずかな弊社にとって、東日本さんで活躍されている女性との接点は、とても刺激になっています。今後も交流を継続し、女性や高齢者が輝いて働ける職場環境を目指したいと思っています」と彦坂さん。「コラボによって、自社以外のやり方を知ることができ、互いのリソースで活動の範囲が広がった。何より、一緒に活動することが楽しかった」と息もぴったりな相澤さんと飯田さんは、活動を通じて実感した「つながる大切さ」を胸に、輪をどんどん広げていきたいと燃えている。



コラボ企画第2弾の「品質向上への取り組み」

女性をはじめSUBARUで輝く 一人ひとりの可能性を解き放つ ～わたしたち“4's Project”の挑戦～

株式会社 SUBARU
群馬製作所

たむら みさき
田村 美咲さん

なりつか めい
成塚 盟さん

のぐち りお
野口 莉央さん



SUBARU群馬製作所のモノづくり部門で女性活躍の推進のために、田村さん、成塚さん、野口さんをはじめとした製造の女性と、人事・製造部長・アンバサダー課長の4人で結成されたのが「4's project」。結成3年目の2024年は、女性の困りごとと解決とともに、職場風土や管理者層の価値観の変革にも挑んだ。課題の1つ「女性の健康」では、男性に寄り添うきっかけをつかんでもらおうと産保スタッフ、組合と連携した生理痛体験を実施。「同性の相談相手」では、グループディスカッションなどの成果で、「5年後、SUBARUで働き続けていると思いますか？」への「はい」が、29%（事前）から83%（事後）に跳ね上がった。中長期目標は「自分たちの困りごとを自分たちで変えていける風土」。

4's project は、その後押しを継続する。

「デジタル化で職場の力を底上げ」 保全職場の推進記録

トヨタ自動車東日本株式会社
本社・宮城大衡工場
工務部 設備課

いとう さやか
伊藤 彩華さん



「製造現場に直接貢献できる仕事がしたい」と、トヨタ自動車東日本の本社人事から宮城大衡工場に異動し、職場改善に励んでいる伊藤さん。2024年度は「職制の負荷が高くて困っている」という声に応え、デジタル化を視野に入れた業務効率化によって職制の仕事を楽にする取り組みに着手した。将来は自分たちでデジタル業務を改善してもらいたいと、現場に入つてたわいのない会話から相談を受け、一緒に考えるスタンスでスタート。「デジタル伝言板」の開設など、デジタルを身近に感じてもらう工夫も凝らした。結果、現場ならではのアイデアを盛り込んだ数々の改善ツールが生まれ、職制の工数低減も実現。しかし「デジタル化は設備課が目指すDXや兆候管理に向けた初めの一步」だと、伊藤さんは気を抜くことなく、自身のスキルアップと取り組み強化に挑んでいる。

活用のきらめき賞 「自社の問題を解決するモデルとなる活動」

先人の知恵と現代技術の融合 ～HV改善で誰いき工程への挑戦～

トヨタ車体株式会社
富士松工場
品質管理部 検査課

つだ ひめこ
津田 姫子さん



トヨタ車体の富士松工場 品質管理部検査課が取り組んでいる「ダイヴァン活動」は、ダイバー（多様性）とヴァンガード（最前線）を掛けた俗語。2024年度には女性や高齢者の活躍の場を広げるため、作業工程における身長や重量、筋力などの制約を減らし、さらに前屈姿勢や拳上作業といったきつい体勢での作業の見直しに挑んだ。40年間変わらなかった作業の改善に際し、リーダーの津田さんをはじめとするメンバーが協力を仰いだのは、工務部、改善組、品質技術員室、品質保証部の面々。結果、「先人の知恵を使ったからくりと、現代技術を駆使したデジタル化が融合したハイブリッド改善が実現し、“誰いき工程”50%以上の目標もクリアできました」と津田さん。「今後も横のつながりを大切に、誰もがいきいきと活躍できる職場づくりに貢献したい」と意気込みを語った。

自主保全チームリーダーの取り組み ～維持管理を当たり前にするまでの道のり～

オリエンタルモーター株式会社
高松カンパニー
第1製造部製造1課
ローターグループ

わたなべ ゆきえ
渡部 幸恵さん



オリエンタルモーター全国9拠点の先陣を切って、2020年に「TPM活動」を導入した高松カンパニー。その8本柱の1つ「自主保全」に最初に取り組んだのがローターグループだ。「そのため、全社に展開するモデル職場として、全員参加のしくみづくり、共有方法、改善の水平展開、維持管理方法などを確立する必要がありました」と渡部さん。そこで渡部さん含む4人のチームリーダー（うち3人が女性）が活動や課題を共有しながら推進し、重責を果たした。5年間の展開で、現場オペレーターは異常発見、処置回復、条件設定などの能力を大幅に向上。苦手だった維持管理も、自分で考えて実践し続けられるようになり、設備トラブルやチョコ停も大幅に減少した。「TPMというツールで職場の体質改善も成功。この体質を維持しながら、活動のスパイラルアップを目指します」

デジタルってマジックみたい♪

トヨタ自動車株式会社
本社工場
水素開発製造部

たまき みゆう
玉城 海優さん



本社工場水素開発製造部の保守・保全担当の玉城さんは、「もっとみんなの役に立ちたい」と社内のデジタル勉強会に参加。知識ゼロでの挑戦だったが「マジックみたいでおもしろい!」と熱中し、ほどなくメンバー間の連絡に便利な『組織表アプリ』を先生と共同作成。部員約400人を対象に100分/日の工数低減を実現し、展開した他部署でも賞賛された。それを励みに猛勉強し、1年後には現場の困り事を解決し、さらに30分/日の工数削減を叶える『点検アプリ』を1人で完成させるまでに成長した。

「デジタルという武器を手に入れたことで保全業務の効率化で活躍することができました」と玉城さん。「デジタル伝道師」となって、デジタル業務ができる人を増やしたいという目標とともに、「自分の武器を手に入れる挑戦をしてほしい」と熱く語った。

ツーリング改善活動の実践からの 人財育成の歩み ～新米先生誕生の奮闘記～

ジャトコ株式会社
八木工場
第二八木製造課

さわえ まほ
澤江 麻帆さん



ジャトコに入社以来、コントロールバルブの加工に従事していた澤江さんが、2022年1月に同社初の女性ツーリング改善リーダーに着任したのは「女性的な細やかさを改善に生かせたら」という思いからだった。以降、不良ゼロに満足せずにチョコ停ゼロに向けて追加対策をする、ロス低減につながるプログラムの内製を実現するといったこだわりの改善で、毎年、目標を上回る金額効果を達成。その高い信頼から、2024年度に開校した「八木工場オリジナル ツーリング改善オペレーター育成塾」の先生に抜擢され奮闘中だ。「初めて教える側となり伝え方に苦戦もしましたが、教える側・教わる側ともに理解が深まって成長できたことで、現場が良くなり工場の強みになったと思います」と澤江さん。さらにスキルアップして会社に貢献したいと、改善活動への情熱は冷めやらない。

実践のきらめき賞

「身につけた知識・技術を存分に発揮した活動」

LEDを活用した安全対策

日産自動車株式会社
栃木工場
第一製造部 組立課

こばやし みほこ
小林 美穂子さん



日産自動車栃木工場の車両組立部署に属し、SUSやミシンを使ったつくりもの、デジタル化業務などで、製造現場の設備トラブルや作業者の依頼に対応しているのが、小林さんを含む7人の女性メンバーだ。今回の取り組みは、メンバーが無人搬送車と接触しそうになったことが発端。聞き込み調査で7割が同様の体験があることが判明したため、サポートメンバーも巻き込んで、無人搬送車の検知範囲が縮小される狭い通路で接近を知らせる方法を模索し、検証した。そして生まれたのが、「止まれ」の文字入りのマークをLEDライトで床に投影して注意喚起するアイデアだ。実現に向けてさまざまな工夫を凝らした結果、「作業者全員が止まってくれるようになりました」と大成功。「今後も現場の困りごとに対し積極的に改善を実施し、女性活躍の場を広げたいと思います」と抱負を語った。

行動を変えよう！ サステナブル社会を築くために 今、私たちができること

トヨタ車体株式会社
富士松工場
組立部 第1組立課

あらき みさ
荒木 美紗さん



トヨタ車体 富士松工場の内装部品の組み付けを行うトリム組所属の荒木さんは、DE&I担当者として、誰もが働きやすい工程づくりに向けた改善活動を行っている。今回、着手したのは、自身が設計したシューターの改善。自主保全が適切に行えないことでの異常がライン停止を招いて、負担軽減が目的の導入にもかかわらず、逆に作業者の負担を増やしていた。動作調査の結果、予想を超える負荷でパイプに亀裂が生じていることが判明。高強度のパイプへの変更、補助金具の追加などの対策を講じて、異常件数の低減とライン停止時間の大幅な削減が達成できた。「上司やメンバーの助けがあって作業環境が安定し、全体の生産効率も向上したことがこの改善の自慢」と荒木さん。2025年度は、女性・障がいをお持ちの方・55歳以上が活躍できる職場づくりに取り組む。

企業の垣根を越えた コラボ改善活動

トヨタ自動車東日本株式会社

宮城大和工場

品質管理部 品質管理課

あいざわ

相澤 まりんさん

トヨタ車体株式会社

吉原工場 品質管理部 検査課

いいだ ゆい

飯田 祐衣さん



2023年度 TPM レディース大会を機に交流をスタートした2社。トヨタ自動車東日本の発表を聞いたトヨタ車体からの声かけがきっかけだった。まずは互いを知ろうと相澤さんと飯田さんが双方のリーダーとなって訪問し合い、座談会を実施。そこからコラボ企画第1弾として、「良いとこ取り改善」の活動に着手した。第2弾では「一緒に何かつくりたいね」と、「前工程(トヨタ自動車東日本での部品の組み付け)」と「後工程(トヨタ車体での車への組み付け)」の双方をバーチャルに体験できるVR動画を作成。互いの作業への理解が、品質向上にもつながっている。これらの活動の気づきを独自の改善に活かすとともに、第3弾では「女性の意識を上げる活動」のコラボも進行中だ。活動を機に「つながる大切さ」を再認識したという両社。「輪」がどんどん広がることが期待される。

(本誌5ページ 特別企画もご覧ください)

ダイバーシティとDXに取り組む 新規組立ライン立上げ ～女性リーダーへの挑戦～

ヤマハ発動機株式会社

袋井南工場

マリン事業本部 製造統括部
マリンエンジン製造部 生産課

こうとう まゆみ

後藤 麻由美さん



ヤマハ発動機のマリンエンジン製造部で、子育てと仕事の両立に奮闘している後藤さん。活躍が評価されてライン維持者に昇格するも、性別や体格によって体力的、身体的なハンディを感じるがあることから、「制約なく働ける環境を実現したい」と上長に打ち明けた。それを機に、生産課の新規ラインの立ち上げプロジェクトへの挑戦がスタート。「体格・身長・力の制約」と「認知・判断の制約」の排除、および「分析時間」の削減を実現するために関係各所に協力を仰ぎ、電動昇降式台車の開発や作業の可視化、画像検査の導入など、多彩な対策を講じて、約1年で最新技術を織り込んだ新規ラインの構築に成功した。その間に念願の女性リーダーにも就任。「もっと女性リーダーを増やせるように女性社員の交流の場を設けて、みんなが笑顔で楽しく働ける環境を作りたい」と、まさにリーダーシップを発揮している。

挑戦のきらめき賞

「困難なことや新しいことに果敢に立ち向かった活動」

持ち方を追求し負担を減らそう！

～みんなが笑顔になるモノづくりを目指して～

トヨタ自動車株式会社
元町工場 機械部 設備課

だて れいか

伊達 玲佳さん

そえじま ゆい

副島 由衣さん



トヨタ自動車 元町工場 設備課の改善係である伊達さんの課題は、女性や高齢者も働きやすい職場環境の整備。そこで自分自身がやりにくさを感じる作業を洗い出し、改善に取り組んだ。保全係の副島さんらと現状調査する中、同じ重量でも「握る」より、「つまむ」ほうが重く感じる(＝力が入りにくい)ことを確認。そこで、つまむ作業を廃止するために、治具の製造に挑んだ。結果、つまんで起こすと14kgfの力がかかる平鋼起こし作業を、5kgfの力でできる治具の開発に成功。副島さんも、面版を直接指の力で持つ負荷を改善するために、面版に装着できる取っ手治具を製作して、安全性・作業性の向上に貢献した。「使う人の立場に立ったモノづくりで働きやすい環境づくりに貢献し、改善での学びを後輩にも伝承できるように取り組んでいきます」と2人で抱負を語った。

金型整備工程 重筋作業改善への挑戦

～多様な人材が安全・安心に働ける職場づくり～

株式会社豊田自動織機
大府工場

コンプレッサ事業部

製造第二部 金型課

たばた あみ

田畑 亜珠さん



豊田自動織機で金型整備のスキルアップに挑んでいた田畑さんに立ち塞がった、重整備作業という壁。「これは職場の問題だ」という上長の後押しで、田畑さん自ら改善リーダーとなって現状調査をすると、以前の改善は男性評価で、実は高齢者も無理をしていることがわかった。最難関は、何度も改善に失敗している「スクイズ抜きハンマー 継続作業」の撲滅。メンバー、設計グループで知恵を出し合うも、難航していた。そんな折、田畑さんが調理器具から、「押し出す」を「押し込んで出す」に変更したらとひらめく。そこからスピードアップし、さまざまな検証を経て、課の方針目標を達成。残る「大ハンマー作業」の問題解決も順調に進んでいる。活動を通して、仲間意識の向上を感じた田畑さん。「今後もみんなが安全で安心して働ける職場づくりを目指します」と燃えている。

せいぞう小町の挑戦 ～ 3rd season ～

ヤマハ発動機株式会社
ロボティクス事業部

ふしみ ちさ
伏見 千紗さん

磐田第1製造部
いしい りさ
石井 里沙さん



「せいぞう小町」は、女性活躍の風土醸成、人材の価値向上を目的に発足したヤマハ発動機の社内プロジェクト。製造現場で働く女性社員が主体で、伏見さんはPJリーダーを務めている。活動3年目となる2024年度は、活動メンバーのブレインストーミングで挙げた「硬い・高い・重い」、「トイレ・休憩所・ロッカー・作業着」、「ライフイベント・女性の体調・スキル向上」といった職場の困りごとに取り組んだ。まずは実態を徹底的に調査して、改善方法を検討。改善後はその内容を「小町仕様書」にわかりやすく記した。さらに、正確な情報や女性目線での気づきをみんなに伝えたいと、困ったときの助けになる『DE&Iハンドブック』も作成。「こんなことも載せてほしい」という依頼もいただき、とてもうれしかったです」という話からも、活動への認知と期待が伺える。

(本誌4ページ 特別企画をご覧ください)

週休3日がいい

～風土の立て直し こんな働きかたじゃ～

株式会社 SUBARU
群馬製作所
第1ボディ課

まつしま なつみ
松島 夏海さん



SUBARU 群馬製作所 第1ボディ課で、トランク工程のロス取り(ロボット操作や研磨機調査)を担当する中で湧いたのは、「そもそも圧痕不良が出なければ手直しは必要ないはず」「なぜ使用限界線前の電極が交換されるのか」といった「?」だった。そこで松島さんは指導員と共に班長に相談して、現状把握ミーティングと、作業を学びながらの調査を実施。その結果をもとに関係各所のメンバーと改善策を練った結果、年間240万円だった廃却、毎日10件あった圧痕不良手直しが共に「0」に。月間約112万円と119分の削減が実現し、改善に前向きではなかった部署の空気も大きく変わった。「あきらめずに動けば新しいものが生まれると実感しました」と松島さん。リンゴの皮剥きから電極の削り方の改善のヒントを得た発想力で、難関な週休3日というテーマにも挑戦する。

発想のきらめき賞 「柔軟で独創的な視点の活動」

～もっと女性が笑顔で輝ける職場を増やしたい～ 妊婦体験から防災グッズまで、 スマイリー活動の3年目

三菱電機株式会社
名古屋製作所

たむら かおり
田村 香織さん

さとう よしえ
佐藤 佳恵さん



産業用製品を製作している三菱電機 名古屋製作所に所属する田村さんと佐藤さんは、自主的に「スマイリー活動」を立ち上げ、妊婦も働きやすい職場づくりに取り組んでいる。3年目の2024年は、希望者に1日8時間、1週間連続で妊婦疑似体験セットを着用して勤務してもらい、その気づきを改善に生かす取り組みに注力。大きなお腹でかむ負担を実感したことで、靴箱の使いやすい場所を妊婦および足腰を痛めている人優先の「いたわりエリア」にするアイデアも生まれた。また、妊産婦に対し必要な配慮や、妊産婦向けの制度の紹介などをまとめた『妊産婦ガイドブック』も制作。その配布によって、名古屋地区のどの職場でも同じ配慮ができる環境を整えた。「今後は各現場を回って活動をPRする予定。女性が今よりもっともっと輝ける社会になるよう、活動を続けます」

組立ライン環境改善による 品質向上

日産自動車株式会社
横浜工場
第一製造部エンジン課

おおたけ ゆきこ
大竹 由希子さん



「すべての作業者にやさしい職場環境をつくろう」と、改善に取り組んだ日産自動車 横浜工場 第一製造部エンジン課の8人。紅一点の大竹さんがチームリーダーの役目を担った。メンバーの気づき・困りごとを洗い出すと、外工程の締付工具が多いために、工具の選択に迷ったり、吊り下げている工具が頭に当たっていることが判明。そこで、部品、設備、作業方法の現状を把握し、工具メーカーも巻き込んで新工具の導入を含む改善にトライした。試行錯誤の末、18本の締付工具が必要だった工程を3本で収めることに成功。蓄積した技術による工具の設定などによって、「優れた工程能力」を確保し、品質・安全性・作業性もアップした。「固定概念の払拭はたいへんでしたが、これを機にベテランと若手のコミュニケーションも向上しました。今後も協力し合って問題解決に挑戦します」

現場と未来をつなぐ DX で輝く私たちの挑戦!!

～時短 ×DX で開花!! 私たちの成長物語～

ジャトコ株式会社
第二パワートレイン工場
富士宮第一製造課
機械加工課

おうち ひろか

大内 央華さん

組立・物流課

なかむら くみこ

中村 久美子さん



ジャトコ富士宮第一製造課の大内さんと中村さんは共に子育て中で、つねに時間に追われ家では子どもに「顔が鬼みたい」と言われることも。職場でも時短勤務によって他の社員に負担をかけているのではという罪悪感と、スキルアップの機会の減少を感じていた。そこで、家庭と仕事の両立には「短時間で結果を出し、笑顔で働ける業務＝DX化」が不可欠だと奮闘。社内のDX教育の受講や独学でスキルを高めて富士宮地区のDX担当となり、DX専属チームや地区のDX担当の助けのもと、各種の業務システムを構築し、大幅な時間削減に成功した。自信と笑顔を取り戻し、「DX業務は時短勤務者の味方!」と、DX担当を早期育成するためのフローづくりや、各地区の連携で会社全体のDXのスキルアップにも積極的に取り組んでいる2人。会場には共感の涙を流す人の姿もあった。

新しい改善への挑戦

～みんながいきいき働ける職場づくりの為に～

トヨタ自動車株式会社
田原工場
エンジン製造部
第2エンジン製造課

しらかた あきひ

白潟 秋妃さん



トヨタ自動車 第2エンジン製造課で2022年からチームリーダーを務める白潟さんが着手したのは、「指が痛くなるし、やりづらい」という声が多く出た「クリップの取り付け作業」の改善。アイデアを結集してからくり治具を作製したものの、治具のレバーが作業の妨げになり振り出しに戻った。自動化にはコストや時間が必要で、自分たちで行うにはスキルが足りない。そんなときに技術員から「これなら専門知識がなくても大丈夫」と提案されたのが、電動化コントローラ「sio」。白潟さんの手による接続、プログラミング、データ入力で、クリップ取り付けの自動化が実現できた。その後チームに知識を共有し、力のいる部品の組み付けや、やりづらい作業を次々と自動化。「みんなに頼られる女性リーダーを目指して」の白潟さんのがんばりと、チームワークがよく見える発表だった。

表現のきらめき賞

「取組みと成果が理解しやすい表現力に優れた発表」

こっちゃんとりいのキズ改善奮闘記

～光輝く美しいバンパーを目指して!!～

マツダ株式会社
本社工場
第1車両製造部 プラスチック課
ハラペコアオムシサークル

しらいし

白石 こころさん

さとう りあら

佐藤 凜杏来さん



マツダ本社工場 第1車両製造部のバンパー組立職場の初の女性社員である、白石さん(こっちゃん)と、佐藤さん(りい)は、ある日思い切って「私たち主体で改善をやらせてください」と直訴。「女性が活躍できる職場風土への改善」を考えていた課長から「バンパーのキズ対策」を任せられた。徹底調査の結果、身長や筋力の違いによって無理な作業姿勢を取らざるを得ないことで手ブレが起き、スリキズ、当てキズができることが判明。そこで、メンバーと「新ストライクゾーン」を作成したうえで、冷蔵庫のチルド室の扉の開閉や、美顔器のローラーの回転などをヒントに、各自がベストな体勢で作業ができる理想の作業台を考案・製作。長年横ばいだったバンパーのキズを「0」にすることに成功したという。元気いっぱいの発表から、取り組みや成長を楽しんでいる様子が伺えた。

ソケット戻し忘れの撲滅

“知恵と工夫で「事件」を解決”

豊田合成株式会社
尾西工場
SS製造部 エアバッグ1課
第1エアバッグ係

あらい

新井 さくらさん



豊田合成の尾西工場で、エアバッグモジュールの組立を行っているエアバッグ1課。そこである日、名付けて「ソケットピンギロチン事件」が発生した。これはナット締め付け機を分解して清掃したあとに、ソケットピンにソケットを戻し忘れたというヒューマンエラー。その状態でラインが動くとソケットピン折れが発生し、破片が製品に混入するとリコール対象になる。そこで、新井さんらのチームが現状調査に乗り出し、班によってバラバラだった清掃作業を統一。ソケットを置く専用トレーを用意するなどの工夫で、「戻し忘れ0」の継続に成功した。さらに、現地現物を見て「チョッと変」を積極的に探し出す「チョッと変だな気づき会」も開催。この活動が全員の気づき向上につながり、困りごとの提案件数も5倍に増加しているという。チームを巻き込むネーミングセンスも魅力だ。

第36回TPM®レディース大会 発表者一覧

発表順	社名	発表者氏名
A1	トヨタ自動車株式会社 本社工場	玉城 海優
A2	豊田合成株式会社 平和町工場	木村 遥奈
A3	株式会社アイシン 半田工場	齋田 みずえ
A4	本田技研工業株式会社 埼玉製作所 完成車工場	小池 怜奈
A5	日産自動車株式会社 追浜工場	横谷 優月
A6	ダイキン工業株式会社 滋賀製作所	田邊 ふみ
A7	ヤマハ発動機株式会社	伏見 千紗 / 石井 里沙
A8	株式会社 SUBARU 群馬製作所	田村 美咲 / 成塚 盟 / 野口 莉央
A9	マツダ株式会社 防府工場	町田 遥菜
A10	ジャトコ株式会社 第二パワートレイン工場	大内 央華 / 中村 久美子
A11 (共同)	トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大和工場	相澤 まりん
	トヨタ車体株式会社 吉原工場	飯田 祐衣
B1	株式会社アイシン	高木 翼
B2	富士フイルムマテリアルマニュファクチャリング株式会社 神奈川事業場	井口 宏子
B3	トヨタ自動車株式会社 田原工場	白潟 秋妃
B4	株式会社 SUBARU 群馬製作所	松島 夏海
B5	ヤマハ発動機株式会社 袋井南工場	後藤 麻由美
B6	ジャトコ株式会社 八木工場	澤江 麻帆
B7	トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場	伊藤 彩華
B8	豊田合成株式会社 尾西工場	辻村 智代
B9	ダイキン工業株式会社 堺製作所	西山 綾
B10	本田技研工業株式会社 埼玉製作所	栗飯原 朱里
B11	日産自動車株式会社 横浜工場	小田切 美紀
C1	トヨタ車体株式会社 富士松工場	津田 姫子
C2	三菱電機株式会社 名古屋製作所	田村 香織 / 佐藤 佳恵
C3	日産自動車株式会社 栃木工場	小林 美穂子
C4	三桜工業株式会社 滋賀事業所	落合 里奈 / 岸村 夏希
C5	マツダ株式会社 本社工場	白石 こころ / 佐藤 凜杏来
C6	株式会社 SUBARU 群馬製作所	阿久津 未羽
C7	富士フイルムマテリアルマニュファクチャリング株式会社 神奈川事業場	磯崎 真耶
C8	株式会社アイシン グループ生産本部 小川工場	大嶋 伊都子
C9	株式会社豊田自動織機 東知多工場	菅沼 智花
C10	ヤマハ発動機株式会社 本社	長葭 咲彩
C11	トヨタ自動車株式会社 元町工場	伊達 玲佳 / 副島 由衣
D1	株式会社デンソー エレクトロフィケーション機器製造2部 EHC1 工場	藤村 実和
D2	株式会社豊田自動織機 大府工場	田畑 亜珠
D3	ヤマハ発動機株式会社	尾畑 咲帆
D4	トヨタ車体株式会社 富士松工場	荒木 美紗
D5	株式会社アイシン パワートレイン製品本部	近藤 実悠
D6	豊田合成株式会社 尾西工場	新井 さくら
D7	オリエンタルモーター株式会社 高松カンパニー	渡部 幸恵
D8	日産自動車株式会社 横浜工場	大竹 由希子
D9	富士フイルムマテリアルマニュファクチャリング株式会社 静岡工場	大竹 ひとみ / 渡邊有美子
D10	アイシン高丘株式会社 吉良工場	片桐 彩花
D11	愛三工業株式会社 安城工場	岩坂 彩夏

第37回 女性が輝く、現場の未来 TPM®レディース大会

2026.3.13(金) ポートメッセなごや

女性の力を、
モノづくりの力に。



第37回大会発表事例募集
TPM®レディース大会公式サイト
<https://info-jipm.jp/event/ladies/>

第36回 TPMレディース大会

主催：公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 開催日：2025年 3月14日

参加者投票により、全5種の“きらめき賞”を選出！
受賞者一堂での歓びの集合写真！！
※写真中央：河合会長（トヨタ自動車 Executive Fellow）

女性らしい視点・感性・発想を活かし、
その改善が“誰もが働きやすい環境”を作りだす。

“現代モノづくり現場”に必要とされる視点や活動のヒントが
TPM®レディース大会には多数あります。

女性だけでなく、男性にも知ってもらいたい取組みが集まる、
この大会に、ぜひ、皆さまご参加ください！

プラントエンジニア特別号 つなぐ 2025年8月31日発行

発行・編集 公益社団法人日本プラントメンテナンス協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-3 神保町SFⅢビル5階

TEL:03-6865-6081 <https://www.jipm.or.jp/> E-mail:jigyo@jipm.or.jp

本書の内容の一部または全部を無断で複製（コピー）することは、法律で定められた場合を除き、
著者および当会の権利の侵害となりますので、あらかじめ許諾を求めてください。

「TPM」・「からくり改善」は、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会の登録商標です。

KARAKURI KAIZEN is trademark or registered trademark of Japan Institute of Plant Maintenance in Japan and other countries.